

平成 30 年度

事 業 報 告 書

(平成 30 年 4 月 1 日から平成 31 年 3 月 31 日まで)

学校法人 高野山学園

目 次

I. 法人の概要	P1
1. 法人の目的	P1
2. 設置する学校の所在地等	P1
3. 設置する学校・学部・学科等	P2
4. 入学定員及び学生数	P2
(1) 高野山大学	P2
(2) 高野山高等学校	P3
(3) 高野山幼稚園（高野山こども園）	P3
5. 役員・教職員数	P4
(1) 役員	P3
(2) 教職員数	P4
II. 事業の概要	P5
1. 高野山学園法人本部	P5
2. 高野山大学	P5
3. 高野山高等学校	P14
4. 高野山幼稚園（高野山こども園）	P31

I. 法人の概要

1. 法人の目的

この法人は、教育基本法及び学校教育法に従い、仏教精神に則り、大学、高等学校、その他の教育施設を設置し、社会に貢献できる有能な人材を育成することを目的とする。(『学校法人高野山学園寄附行為』第3条)

2. 設置する学校等の所在地等

設置する学校等	所在地	事業所長
高野山学園 法人本部	〒648-0280 和歌山県伊都郡高野町高野山 385 番地 TEL : 0736-56-2922	本部長：芝田 啓治
高野山大学	〒648-0280 和歌山県伊都郡高野町高野山 385 番地 TEL : 0736-56-2921 (代)	学長：乾 龍仁
高野山高等学校	〒648-0288 和歌山県伊都郡高野町高野山 212 番地 TEL : 0736-56-2204 (代)	校長：小野 芳幸
高野山幼稚園 (高野山こども園)	〒648-0211 和歌山県伊都郡高野町高野山 26-5 番地 TEL : 0736-56-2320	園長：佐々木基文

3. 設置する学校・学部・学科等

学校名	学部等		
高野山大学	文学部	密教学科、人間学科	
	大学院	文学研究科	密教学専攻修士課程・博士後期課程
			仏教学専攻修士課程・博士後期課程
			密教学専攻修士課程（通信教育課程）
	別科		
高野山高等学校	全日制課程 普通科		
	全日制課程 宗教科		
	広域通信制課程		
高野山幼稚園（高野山こども園）			

4. 入学定員及び学生数（平成30年5月1日現在）

（1）高野山大学

	学科名	入学定員	入学者数	収容定員	学生数
文学部	密教学科	30	21	120	106
	人間学科	20	9	80	57
	計	50	30	200	163
大学院	密教学専攻 修士課程	13	4	26	16
	博士後期課程	3	0	9	2
	修士課程（通信教育課程）	20	29	40	146
	仏教学専攻 修士課程	8	0	16	2
	博士後期課程	3	0	9	1
	計	47	33	100	167
	別科	30	7	60	9

(2) 高野山高等学校全日制課程

全日制課程

区分	入学定員	入学者数	収容定員	生徒数
普通科	60	32	360	97
宗教科	20	6	90	18
計	80	38	450	115

平成30年5月1日現在

通信制課程

区分	入学定員	入学者数	収容定員	生徒数
普通科	900	2	900	20

平成30年5月1日現在

区分	転編入学者数	生徒数	内卒業者数
普通科	13	33	12

平成31年3月31日現在

(3) 高野山幼稚園（高野山こども園）

区分	収容定員	幼児数
こども園	76	66

5. 役員・教職員数（平成30年5月1日現在）

(1) 役員

役職名	氏名	現員	定数
理事長	添田 隆昭	1	1

役職名	現員	定数
理事	10	10
監事	3	3
評議員	21	21

(2) 教職員

①法人本部

区分	専任職員
事務局	3

②高野山大学

区分	学長	教授	准教授	助教	非常勤講師
教育職員	1	1 2	3	3	6 5

区分	専任職員 (契約含)	非常勤職員
事務職員	2 4	1

③高野山高等学校

全日制課程

区分	校長	教頭	専任教諭	非常勤講師
教育職員	1	2 (1)	1 5(2)	1 3

区分	専任職員
事務職員	1 3

区分	非常勤職員
事務職員	2

※ () は通信制教職員数

④高野山幼稚園（高野山こども園）

区分	園長	専任教諭	契約教諭	非常勤講師	非常勤職員
教育職員	1	6	1	3	2

II. 事業の概要

1. 高野山学園法人本部

平成 30 年度は学園創立 132 年目であり、学校法人全体のさらなる飛躍を目指し、本学園における様々な施策を行ってきた。

法人本部の主な取り組みとしては、理事会・学園運営のガバナンス強化、学生・生徒のための教育支援・環境整備、適正な学園運営と情報公開、地域との連携による社会貢献であり、本学園の経営強化を図ることに努めた。

また、大学の新学部設立や高校寄宿舎の建替えに向けた検討を進めてきた。

2. 高野山大学

(1) 事業の概要

高野山大学は、日本で初めて一般庶民に開かれた教育機関を構想した弘法大師・空海の思想に基づき誕生した大学であり、人間性に富んだ人材を育成し続け、卒業生は 1 万人を超える。世界中の人々が集う高野山の地で、未来を担うリーダーを「新しい学び」で育てることに努めてきた。

平成 30 年度は、教育理念である「『いのち』の営みを尊び、人間と環境・文化を理解し、人間性豊かで創造性にあふれた人材を育成する」に全教職員がしっかりと認識し、各部門の課題を実現あるいは解決していくことを目標として、大学運営を行った。具体的に、運営方針を表す標語として「学生ファースト」と「丁寧な指導と対応」を掲げ、それらの取り組みにより、学生満足度が高く、特色のある大学を目指している。

本学の特徴を打ち出すため、人間学科のコース制導入や、密教の学びの魅力を発信し続けてきた。平成 31 年度に向けて、カリキュラム改革を予定しており、さらなる学びの充実を図っていく。

学生へのサポートでは、学生の満足度の向上を目指し、教員によるアドバイザーリングの導入、僧侶以外の道を選ぶ学生の就職支援等の強化を図り「入学してよかったです」と思ってもらえる大学にするため、教職員が一丸となって学生サポートに努めた。

また、外国人留学生や社会人の受け入れの充実を図るため、留学生向け入試や留学生専用寮の整備、難波サテライト教室の活用、社会人入学生への支援等をさらに進めてきた。

最重要課題である学生募集については、定員充足の目途が立ってきており、今後、さらに本学の魅力を効果的に伝えられる方策を検討していく。

（2）教育・研究および運営に関する改善・改革の取り組み

①密教学科

社会に真に必要とされる真言僧侶を育成するため、また、密教や仏教に関心のある人たちに対し魅力ある学びを提供するため、密教と仏教を基礎から学べるカリキュラムを構築するため、平成30年度にカリキュラムの改編を行った。

②人間学科

人間学科にコース制（地域デザインコース・日本文化コース・心理ケアコースの3コース）を設け、専門性を深められる学びを提供してきた。学生がそれぞれのコースでの学びに充実感を持てるように講義内容及び学生指導の充実に努めている。

③学生支援の強化

- ア. 教員アドバイザー制度の活用による学生一人ひとりへの徹底したサポート
- イ. 就職支援として1回生から就職への意識が高まる講義を行い、段階的にステップアップするプログラムを提供
- ウ. 保護者懇談会を実施し、保護者との連携を図ることで学生サポートを強化

④留学生受け入れ体制の構築

- ア. 留学生受け入れプログラムを策定し、留学生サポートを強化
- イ. 日本語教育のさらなる充実
- ウ. 留学生向け授業料減免・奨学金制度で修学をサポート
- エ. 留学生専用寮の整備により生活面をサポート
- オ. 英語版・中国語版HPにより、受験希望者に対するサポート強化
- カ. 海外の大学との提携により優秀な留学生の受け入れ

⑤社会人受け入れ体制の構築

- ア. 難波サテライト教室を活用し、社会人に学びの場を提供
- イ. 社会人向け奨学金制度の導入により、働きながら学べる環境の提供
- ウ. 主に社会人を対象とした高野山大学連続講座の実施
- エ. 例年2回開催であった難波サテライト教室向けOCを年3回へ増加
- オ. 入試に合わせた時期に進学相談会の開催

⑥高校、他大学や地域との連携

- ア. タイ国大学（Rajamangala University of Technology Rattanakosin）と連携
- イ. 学校法人千代田学園（大阪千代田短期大学・大阪暁光高校）との連携

※教育学部新設に向けて協力体制を構築

- ウ. りら創造芸術高校との連携
- エ. 河内長野市民大学「くろまろ塾」との連携（講座の提供）
- オ. 高野町と連携し「高野山学」の講座開講
- カ. 高野山高校との高大連携強化
- キ. 教員養成の発展及び地域の活性化に寄与することを目的に「(株)乗馬クラブクレイン」「農事組合法人 富田林南地区共同組合」「(公財) 河内長野市講演緑化協会」「大阪府森林組合南河内支店」「(特非) 里山ひだまりフォーム」「和泉体験農園」「小山田小学校区まちづくり会」「(特非) 森林ボランティアトモロス」「大阪府立花の文化園」と連携協定を締結
- ク. 広く地域の産業の振興や文化の発展に貢献することを目的に、「(株)角濱ごまとうふ総本舗」と連携協定を締結

⑦私立大学ブランディング事業の実施

文科省私立大学ブランディング事業として、平成 28 年度から、大学のみならず高野山全体のブランディングを前提とし、プロジェクトを進めている。密教の学術的研究の促進と、世界遺産・高野山ブランドを兼ね備えた「高野山アーカイブ」を構築してきた。

⑧学生募集の強化

- ア. オープンキャンパスの開催回数を増やし、内容を充実
- イ. 大学案内の充実、効果的な広報物の発行
- ウ. 高校訪問・進学説明会への積極的参加
- エ. 本学の特長を活かした「シークレットキャンパス」の開催
- オ. 難波サテライト教室にて高校生向けのオープンキャンパスを開催
- カ. SNS を活かした広報活動の展開
- キ. 奥の院でのチラシ配布
- ク. 公式 HP のスマートフォン対応

(3) 外部認証評価の受審について

平成 31 年 3 月にて適合期間満了となるため、今年度(公財)大学基準協会の認証評価を受審し、大学基準に「適合」していると認定された。

（期間 平成 31 年 4 月～令和 8 年 3 月）

(4) 密教文化研究所の活動

1. 事業方針および成果の概要

前年度に引き続き、平成 30 年度も密教文化研究所では、「弘法大師の思想とその展開に

「関する研究」「密教の形成と流傳に関する研究」「密教と現代社会の諸問題に関する研究」を事業の3つの柱として、諸活動を活発に行った。

2. 事業成果の詳細

各事業の詳細な活動報告は次のとおり。

○研究所研究会 活動実績

研究所員・研究員の研究成果発表及び学術的交流を趣旨として、2回の研究所研究会を開催した。日時・発表者・講題は次の通り。

10月19日（金）徳重弘志「如意輪観音の名称に関する新出資料」

11月16日（金）木下浩良「高野山金剛三昧院発見の足利宗氏五輪塔」

○弘法大師著作研究会 活動実績

『即身成仏義』の研究会を原則として月2回行った。発表者と日程は次の通り。

佐藤隆彦：4月12日・4月26日・5月10日

南 昌宏：5月10日・5月24日・6月14日・6月28日・7月12日・7月26日・
9月27日

武内孝善：10月11日・10月25日・11月8日・11月22日

米田弘仁：11月22日・12月6日

※研究成果は、『密教文化研究所紀要』別冊として、以下の内容で刊行の予定。

『即身成仏義』の研究

○南山教学研究会 活動実績

本研究会は高野山に伝わる論義書の研究・整理をすすめて、真言密教の展開を明らかにして教学研究及び密教興隆を図り、合わせて現在も続けられている論義法会に資することを目的に活動をする。

(輪読会)

下記の日程・担当者・内容で開催する。

10月26日（金）土居夏樹「六大仏形」

1月10日（木）高柳健太郎「六大仏形一再考」

1月24日（木）北川真寛「八葉四隅」

(研究発表・論文)

7月13日（金）密教研究会学術大会 北川真寛「一門普門について—論義書を中心に」

11月10日（土）日本密教学会学術大会 土居夏樹「六大仏形について」

(真言教学研究会)

先ず、5月31日（木）、講師に駒澤大学講師の遠藤廣昭先生を招聘して、「印融法印の足跡と事蹟」と題して高野山東京別院において講演会を開催する。

研究会は下記の日程・研究タイトルで研究発表があった。詳細は次の通り。

11月10日（土）「三種即身成仏」発表者：土居夏樹・別所弘淳（智山伝法院常勤研究員）・野々部利生（真言宗豊山派総合研究所宗学研究所准研究員）於：智積院

3月29日（金）「宿善有無」発表者：山口史恭（大正大学非常勤講師）・林山まゆり（早稲田大学本庄高等学院非常勤講師）・小宮俊海（智山伝法院常勤研究員）於：大正大学総合佛教研究所

(宗学連携事業)

勧学会期間中に同出仕者へ、高野山学道の歴史・『釈摩訶衍論』についての講義を行う。

『釈摩訶衍論』三巻下半の『本書』及び打集の書き下しテキストデータ化。

高野山住職会・金剛峯寺法会課などの協力を得て、『法談論義拾葉集—衆義篇—』として、宝性院版・無量寿院版・附録の3冊を出版する。

○中世密教聖教研究会

本研究会は、日本中世の密教に関する聖教研究を目的とする。本年度は院政期の心覚が撰述した『別尊要記』第4帖の本文を紹介すべく、メンバーが下記の日程で数度にわたり校訂や原稿チェックに研究会を開催する。その成果は『密教文化研究所紀要』32号に掲載される。

第1回 5月12日（土）～同13日（日）会場：本学難波サテライト教室

第2回 7月7日（土）～同8日（日）会場：本学難波サテライト教室

第3回 8月14日（火）会場：京大人間・環境学研究科

第4回 12月22日（土）会場：本学難波サテライト教室

第5回 2月10日（日）会場：京大人間・環境学研究科

○チベット密教研究会

本研究会はテンジン・ウセル本学非常勤講師を中心に本学におけるチベット密教研究を推進することを目的としている。会員はウセル講師の他、藤田光寛名誉教授・乾龍仁学長・奥山直司副学長・奥田剛（チベット仏教サキヤ派ケンポ）の5名である。活動実績としては下記の日程で研究会を開催した。

4月6日・7月20日・同27日・8月3日・同21日・同22日・9月7日・同20日・10月3日・同26日・11月5日・同26日・12月12日・同13日

○刊行物

『密教文化研究所紀要』32号の刊行。

目次は以下の通り。

中世密教研究会「高野山金剛三昧院所蔵『別尊要記』第4帖—翻刻・影印・解題—

坂口太郎「『別尊要記』第4帖解題

木下浩良「鎌倉御家人安積伊東氏造立の石塔—福島県郡山市宝光寺板碑と高野山町石・同奥之院五輪塔」

静春樹「ヴァジラパーニが説く「菩提心の不漏」について

徳重弘志「『聖なる観自在の如意宝珠』のチベット訳校訂テクストおよび和訳—如意輪観音に関する新出資料」

池本裕行「人口減少社会における地方寺院経営の現状—高野山真言宗和歌山支所を事例として

○巡礼遍路研究会（密教文化研究所協賛）

6月24日（日）第5回研究発表会を本学難波サテライト教室で開催。

基調講演：柴谷宗淑「写し靈場と新規靈場」

研究発表：益田勉「日光の行者道と坂東巡礼」、谷口眞梁「番条八十八ヶ所」、村上昭彦「戦前の遍路雑誌にみる写し巡礼の動向」、東近伸「真念庵境内の四国八十八ヶ所写靈場石仏について」

○講演会の開催

金剛峯寺人権局との共催で人権研究会特別講演会を2回開催。詳細は下記のよう。

7月18日（水）本学第3会議室において、山陰加春夫名誉教授を招聘して「中世高野

山金剛峯寺及び同寺領莊園における平等と差別』と題し講演。

12月4日（火）本学第3会議室において、源淳子関西大学世界人権問題センター嘱託研究員を招聘して、「『女人禁制』を考える－女性はどのようにみられてきたか－」と題し講演。

○私立大学プランディング事業の実施

平成28年度から実施の事業である。平成29年度には、8月1日にアーカイブのホームページを作成し、11月25日にシンポジウムを開催。平成30年度は、『定本弘法大師全集』の本文テキストデータと、古写本データを公開する。

また、今年度から高野山の現在の地図と古絵図とを対応した地図アプリを公開して、特に高野山内の54箇所の名所旧跡について解説を述べたピンを立てて高野山の観光案内に便宜を与えるべく事業を展開した。

○高野山靈宝館との博学連携プロジェクトの推進

靈宝館と高野山大学との博学連携プロジェクトとして靈宝館の所蔵する御影堂文書の資料をデジタル化し整理・保管・調査を進めた。

（5）図書館の活動

図書館においては、利用者本位の運営に心がけ、昨年度に引き続き通常9時から20時の11時間を開館時間とした。本学学生・教職員をはじめ同窓生や一般利用者への貸出・返却・レファレンスと、資料の発注・受入・整理等の他、下記の諸事業を図書館では展開した。

◇図書館報『それゆけ！としょかんだより』

毎月、上記の図書館報を発行して、館内では紙媒体でのフリーペーパーで公にして、インターネット上では、図書館のホームページで順次、119号～128号発行までを公開した。そこでは、前谷彰図書館長の論考をはじめ、図書館の近況やニュースを報じた。

◇『高野山大学図書館紀要』第3号の刊行

96頁・B5版の紀要を平成31年3月に刊行した。執筆は、前谷彰（図書館長）・竹村牧男（東洋大学学長）・入谷和也（高野七口再生保存会事務局）・石垣明貴杞（京都大学人

文科学研究所研究生)・木下浩良(総合学術機構課長)の各氏。同紀要は年刊を目途として刊行予定である。

◇図書館戸田文化講座開催

平成30年度における同文化講座は、「高野山大学図書館120周年記念講演会：即身成仏ということ」と題して、東洋大学学長の竹村牧男氏を講師に招聘し、講演と前谷彰図書館長との対談を催して好評までに終えることができた。参加者は60名程で、本学教職員・学生だけでなく、広く県外や高野山山麓の橋本市・かつらぎ町・和歌山市からも一般の参加者があった。日時と開催場所は以下の通り。

日時：11月25日(日) 講演10時～10時50分、対談11時～11時30分

場所：高野山大学2階201号教室

◇図書館茶話会開催

図書館の閲覧室を会場として、本学裏千家茶道部と提携して、平成30年度において下記の1回を開催した。参加者は30人程度で、本学学生や教職員が前谷図書館長を囲んで忌憚のない意見交換会ともなった。

第1回「図書館茶話会」

主催：茶道部

後援：高野山大学図書館

日時：12月19日(水)17時～17時30分

場所：図書閲覧室

◇ミニコーナー設置

閲覧室内に下記のミニコーナーを3回にわたり設けて関連図書の展示を開催した。

「宗教文化士特集」 4～6月

「和歌山地域図書館協議会企画展和歌山城特集」 7～9月

「読書のすすめ特集」 10月

「竹村牧男先生特集」 11～12月

「元号・天皇制特集」 1～3月

※常設「本学卒業生の著作特集」

◇展示コーナー設置

閲覧室内の展示コーナーにおいて下記の展示を開催。

「高野山大学図書館所蔵肖像画展」 4~3月

◇給茶機のサービス

前年度に引き続き、利用者サービスの一環として、お茶の無料サービスを導入。それに合わせて休憩スペースを設けた。

◇他大学・関係団体との提携

2018年和歌山地域図書館協議会フォーラム参加

日 程：平成30年11月17日（土）14時～16時

場 所：和歌山信愛女子短期大学セシリ亞ホール（和歌山市相坂702番2）

講 演：伊藤 宏 氏（和歌山信愛女子短期大学生活文化学科教授）

演 題：ゴジラと原子力～映画に描かれた原水爆と原発～

◇篠田禹子文庫の整理

前年度に引き続き、表記文庫の整理を本学裏千家茶道部との提携により行い、『高野山大学図書館篠田禹子文庫収蔵品目録』を平成30年3月末に刊行した。同文庫は東京都足立区在住の篠田禹子氏より寄贈を受けた茶道関係の書画骨董類である。

3. 高野山高等学校

全日制課程普通科・宗教科

1 学校経営

①三密行を元とした「身のこなし美しく、口にいつもありがとう、意に思いやりの優しさあり」を校訓とし、その実践を根底に指導を行っている。

・身のこなし美しく

生活指導部による服装・頭髪の徹底により、校内風紀を整えた。服装・頭髪検査を定期的に実施することや、日頃の啓発活動により問題行動は激減し、在校生は落ち着いた環境で教育活動に専念できるようになった。「境隨心変（よい環境がよい心を作る）」「割れ窓ガラス理論（ガラスが割れたままの環境では心も荒む。）」を念頭に校内整備を教職員一同で取り組んだ。校舎は耐震基準をほぼクリアしているので不足の補強のみである。さらに在校生の8割が止宿する寄宿舎に関しても老朽化（昭和55年10月竣工、平成7年改修）した生活環境の更なる改善と耐震検査による倒壊の危険から生徒生命の安全を鑑み、寄宿舎改築の準備段階に入った。本校の資金では改築費用の捻出が見込めないため、宗団・学園・本校同窓会のご協力を仰ぎ、2019年度中には工事計画を整え、2020年度中には竣工を目指したい。

・口にいつもありがとう

毎朝の全校朝礼では講堂での瞑想、般若心経の読経、校長の訓話から、心を落ち着けることの実践、般若心経を声に出すことでの積善、校長訓話から校内や高野山内、更には社会時事に及んだ考える力を養い感謝の気持ちを感じることを期待している。また週に1時間は授業（宗教一般）として弘法大師・釈尊のご生涯から感謝の気持ちを学ぶことを実践した。校内では生徒・教職員共に挨拶を励行し、互いへの感謝を口に出すことを実践した。すべての授業では授業の開始時・終了時に教師と生徒がともに合掌しあうことが高野山高校の教育姿勢を示している。

・意に思いやりの優しさあり

本校に在籍する生徒は、本校に就学する意志と目的意識が明確である。本校で身と口とを整えた生徒たちがそれぞれの将来像を書き進路希望が達成できるよう教職員が一丸となって進路指導を行っている。昨年度は特進コースでは首都大学東京をはじめ様々な希望進路へ卒立ったが、学園併設校である高野山大学への進学も常々斡旋している。しかし、高野山大学での教育内容が本校生徒のニーズに合わないためか、普通科生徒はもとより宗教科

生徒でも高野山大学への進学を勧めるのは難しい。設置準備されている教育学部への期待もあるが、高野山高校・高野山大学の更なる連携によって高野山学園の発展に寄与できるものと考えている。

②本校の教育理念は高祖弘法大師を根本として確立している。「桃李ものを言わざれども下自ずから蹊を成す」（史記）の通り、今預かっている生徒を理念に沿って大切に育てることで、弘法大師の教えが着実に広まることを確信している。しかし、経営には攻めや発信力が必要である。よって、①の経営理念をもとに、次年度は下記の事業展開を計画している。

A、高野山真言宗全国寺院が高野山高校の応援者となっていたりするよう、従前の支所会議・特別伝道大会・寺族婦人会・教師研修会などには積極的に訪問し、本校のPRを実施する。しかし、実際に応援者は少なく、本校存在に批判的な意見が多いのも事実であり理解している。本校の努力・成功例・本宗寺院関係の優遇を短的に伝えることを念頭に置き、PRの時間が頂ける場合は映像を駆使して現在の高校の現状をたくさんの方に見て頂きたい。（東日本地区参与研修会では1時間の講演に映像を交えて行い、素晴らしい反響を頂いた。またその講演によって入学に至った生徒もいた。）

B、本宗寺院関係の優遇として、平成30年度から実施の奨学生制度（宗教科生は弘法大師末徒育成奨学生として授業料免除、本宗寺院子弟は入学金・授業料免除）を実施し、好感触を得た。引き続き継続すると共に奨学生制度の認識を高めるため、本校PRに必ず加えたい。

C、入学試験変革を行い、本校・東京・大阪で入試を行い2年経過したが、専願・併願共に試験会場の選択肢が増えたことで受験者の増加が得られた。東京別院・高野山大学難波サテライトのご理解のおかげであり、引き続き継続すると共に受験会場の認識を高めるため、本校PRに必ず加えたい。

D、東京別院において私塾対象の教育講演会を実施（6月29日 講師 名越康文氏）。本校は全国区の学校である。その中でも東京は巨大マーケットである。高野山高校の教育理念を知っていただく好機として実施する。

E、大阪の私塾には教育講演会の実施により友好な関係を継続して築いている。昨年はさらに踏み込み、胸襟を開いた関係から本校の応援者となつてもらうために私塾関係者との食事会を実施し、25名ほどの参加を得て深い関係を確認できた。今年度は5月25日（土）実施の音楽法会に招待し、更なる関係を築きたい。

F、伊都・橋本地区の中学校への本校PRとして、伊都・橋本地区中学校長会を本校が会場設定して実施、本年は7月16日に開催する。それに向けた挨拶回りや本校への募集活動を継続的に行う。なお校長会の前には本校をPRするとともに教育講演会を実施するが、

講師は高野山大学図書館課長木下浩良氏が快諾。

G、9月下旬に例年行っている教育講演会を大阪では高野山大学難波サテライト教室、和歌山ではビッグ愛にて開催を準備。関西圏の私塾に参加してもらい本校のPRを行う。なお講師は高野山大学図書館課長木下浩良氏が快諾。

H、本校に顧問職を設置し、廣瀬義仙師（東京別院主監、山梨支所下宝寿院住職、山梨県立高校で長年の奉職経験と共に野球部監督部長として甲子園に5度出場経験）と辻秀道師（本校宗教科声明講師、金剛峯寺塔頭西門院住職、高野山大学講師や本校講師として長年貢献）に就任頂いた。このことで広い見識で本校を指導頂く。更に今後は高野山高等学校独自の学校評議員会を編成し、寺院関係・高野山内有識者を交えて本校への指導を仰ぎたい。

I、普通科に新設「音楽コース（仮称）」を準備検討しており、2020年度もしくは2021年度に開校し、そのための募集活動を理事会での承認を得てから開始したい。春季宗会において辻議員からプラスバンドの学内設置が学校の繁栄に期待できるとの意見を具現化し、1学年定員15名（3学年で定員45名）を計画。私立学校所管の和歌山県文化学術課には平成31年4月初旬に相談し、新カリキュラム（案）を提出することのみで特に認可手続きはないとの回答を得ている。理事会で設置に関する議論を頂きたい。中学校ではプラスバンドを形成している学校が多く、経験者人口が多い。本校プラスバンド設置により、学園行事・本山行事に演奏させて頂くなどの協力が期待できる。多少の施設（機材・場所）が必要であるが、建物の新設などの必要はなく、今後は適切な講師選定と具体的な予算組、更には収支シミュレーションすることが喫緊の課題である。

J、コース編成を分りやすくするために普通科・宗教科ともにI類（普通）、II類（特進）とする。

従 前	変更後
普通科　自己探求コース	I　類
普通科　スポーツコース (野球・女子ハンド)	普通科自己探求コース 普通科スポーツコース (野球・女子ハンド)
普通科　特別進学コース	
宗教科　I類（普通コース）	普通科音楽コース 新設
宗教科　II類（進学コース）	宗教科
II　類	
	普通科特別進学コース
	宗教科

- K、予てより企図されていた学園人事交流による大学、高校間の事務職員の人事異動は、平成31年4月1日付で実施され、事務所の業務改善及び適正化が見られた。しかし、事務職員は予算編成や授業料管理、備品購入や給与計算等の管理的業務の他、就学支援金、奨学金の申請手続きなど生徒就学に於ける経済的支援業務、寄宿舎生徒の預り金管理の生徒サービス業務等、学校運営を遂行する業務の狭間で来客応対、電話応対等も日常的に発生している。それらを並行して行うことでの手続きの遅延などが懸念される。今後は事務職員を補助できる人員を学内外で臨時に確保することが望まれる。
- L、職員会議を定例化し、月に一度は教職員全体会議とした。これは常勤の教員だけでなく非常勤講師の先生にも出席いただき、広い見識から会議での意見を頂くことを期待すると共に、非常勤講師を含む学校全体の教員の意志統一を図るもので、年度の初めに各月の会議日をすでに決定し発表した。4月25日には第1回会議を行い、音楽コースの設置や高校がおかれる現状を議論した。
- M、年間1万2000人が帰国就学しているといわれる。高等学校希望者も数千人が見込まれるが、寄宿舎を完備している点と世界遺産高野山にある学校など帰国子女にとって魅力的な学校である。本校は海外子女教育振興財団（JOES公益財団法人 247校加盟）に加盟し帰国子女を受け入れることも前向きであるが、寄宿舎建替えには帰国子女受け入れを視野に入れた計画も望まれることと、和歌山県下ではまだない国際バカロレア（IB）取得を今後目指し、その下準備を始める。
- N、11月9日（土）・10日（日）には日本弁論連盟が主催している全国青年弁論大会を、東京別院を会場として高野山高校が主管として開催する。また7月下旬に佐賀県で行われる全国高校総合文化祭（高校生文科系のインターハイ）の弁論部門に和歌山県代表として3A大森奏子さんが出場する。
- O、スポーツコースでは女子ハンドボール部の全国大会出場が本校知名度に大きな影響を及ぼした。女子ハンドボール部には連覇して全国大会でも常勝チームとなることを目指し知名度をさらに上げたい。野球部の甲子園出場は学校経営に大きな影響を及ぼすことが考えられる。しかし野球部は最近成績が芳しくない。チーム立て直しを図り、技術面だけでなく精神面への指導に力を入れ、甲子園出場を目指したい。
- P、2020年度入学生を募集するにあたり、スポーツコース25名（内訳：野球18名、女子ハンド7名）、自己探求コース10名、特進コース5名、宗教科10名、1学年合計50名を目指し、各コースで募集に関する案を出し目標達成に努めたい。なお、音楽コースが新設されるならば10名の募集を目指し、1学年合計60名となることを目指し

たい。

- Q、寄宿舎改築の計画を早急に進め、竣工イメージなどを多く発信し新入生に告知したい。
また寄宿舎改築というハード面だけでなく内部の指導方法も再編するため、生活指導部長を寄宿舎主監に任命した。校内での問題行為を激減させることに成功した生活指導の手腕をさらに寄宿舎で發揮し、寄宿舎生活の確立と環境維持を期待している。
- R、寄宿舎改築や音楽コース設置などは本校にとって大きな行動である。このことを進めるために創立135周年（2021年）記念事業、もしくは弘法大師ご誕生1250年（2023年）記念事業として打ち立て、基金を立ててPRしたい。
- S、寄宿舎改築、校舎の耐震補強と並行し、本校が防災の一拠点となることを検討する。高野町にも打診し、災害備蓄品の保管や発電施設（太陽光発電も含む）の設置などを検討し、高野町民から必要とされる学校となることを提案する。

2 教育活動

①科・コースごとに説明する。

宗教科…今年度は宗教科専任教師の不足を補うために、非常勤講師を1名に3コマお願いした（三重支所下 立葉了禪師）。また校長自身も2コマ授業をもつことで専任教諭の富田は18コマに抑えることが出来た（昨年は22コマ）。在籍は1年生11名（内女子2名）、2年生7名（内女子1名）、3年生6名（内女子1名）である。24名中9名が寺院子弟である。寺生は無量光院・恵光院・金剛三昧院・大圓院、西南院から通学している。教育内容に変更点はないが、各教師の持ち時間を示すことで活動報告とする。

専任教諭	富田	普通科1年宗教一般、普通科2年宗教一般、 普通科3年宗教一般、宗Ⅲ宗教一般、宗Ⅱ教義I、宗Ⅱ 教義II、宗Ⅲ法式、宗Ⅲ声明、宗I常用經典、宗Ⅲ布教、 宗I宗教史、宗I阿字觀
非常勤講師	辻	宗Ⅱ声明、宗I声明
	小野	宗Ⅱ宗教一般、宗I宗教一般
	原	宗Ⅲ御詠歌、宗Ⅱ御詠歌、宗I御詠歌
	藤本	宗Ⅲ法式（華道）
	立葉	宗Ⅱ梵習字、宗Ⅲ常用經典
	木下	特進1年宗教一般、特進2年宗教一般、 特進3年宗教一般

普通科特別進学コース・・・今年度より講師である結城先生を主任として進路指導から日頃の教育指導の全般をお願いすることとなった（担任は前田、副担任は安井）。少人数制の利点からそれぞれの得意分野を引き出すと共に不得意分野の克服が可能となり、それぞれ確実に成果を上げている。1年生5名、2年生1名、3年生6名の12名である。月～金は8時間授業を展開し、月曜日と土曜日は本校で授業を行っている。学外講師として結城先生・乙部先生・広橋正憲先生・広橋香文先生を招へいしその他の授業は本校教師で行っている。

普通科自己探求コース・・・今年から授業編成の変更を行った。従前では各学年8コマを公文式や国語演習、英語演習を行っていたが、公文式を廃止しワークアウト（公務員試験対策として5科目を実施。また月に1度は大原簿記専門学校から講師を迎えて就職に向けた授業を実施）を5コマ。更に3コマは実技演習（空手もしくはバスケットボール）、基礎演習（公務員試験対策）の選択制として生徒が進路希望に応じて受講することが出来るよう変更した。授業は現有教諭で行い本年度すべての学年で実施している。なお、在籍は3年生9名、2年生4名、1年生6名、合計19名である。

普通科スポーツコース・・・授業編成に変更はないが女子ハンドボールコーチが退職の為、新規採用の男性舎監がコーチとして指導に当たっている。なお、在籍は野球部3年18名、野球部2年17名、野球部1年14名、合計49名。ハンド部3年4名、ハンド部2年7名、ハンド部1年5名、合計16名。

②その他の全体的活動として読書指導を熱心に行っている。校長が全生徒に希望図書を募り、校長が購入して与えている。また朝礼で読書の意義を話し、本の紹介を度々行っている。各担任や図書担当のバックアップもあり、少しずつ読書が定着してきた。今後も継続して読書を定着させたい。

③学校美化については、本校校舎には建設当時トイレの入り口にドアがあった形跡がある。しかしすべてのドアは取り外され中が丸見えであることに疑問を感じていた。聞くところによるとトイレの中でのトラブルや喫煙を防ぐためであったようであるが、現在は校内での喫煙は一切ない。むしろトイレの中を丸見えにすることへの違和感が強くなってきた。ドアを再び設置するには費用が掛かるので各トイレ入り口に暖簾を付けることとした。また寄宿舎への通路や生徒昇降口に絵を飾るなど心を豊かにする工夫に乗り出した。

④バス通学では2名の舎監が交代で運転に従事している。往路1便、復路2便（15時ごろと1

8時ごろ)で橋本～高野口～笠田～高野山を送迎し、20名の生徒が利用している。このことで伊都橋本地区の生徒たちが通学しやすくなっている。今後さらに通学バスの乗車生徒が増える可能性もあり、現在のマイクロバス(24人乗り)で賄えるかが検討すべきであるが、本校で学びたい生徒を広く受け入れるために通学バスが大きく寄与していると考えている。

3 主な年間行事予定

4月	入学式(全日制・通信制)、新入生本山参拝、始業式、全国奉詠舞大会参加、進路ガイダンス、遠足(3年に一度のテーマパークU.S.J.)
5月	結縁灌頂出仕、差別戒名追善法会参列、音楽法会、育友会総会、教育実習、集団得度式、3年進路ガイダンス、清掃ボランティア
6月	授戒、降誕会、青葉まつり、高校総体、清掃ボランティア、学習塾説明会(東京別院)
7月	期末考查、僧堂研修、三者面談、終業式、学業不振者補習 県私学研修会、夏期講習、前期スクーリング(通信制)
8月	夏期講習、体験入学入寮、始業式
9月	体育大会、教育講演会(大阪・和歌山)、通信制前期卒業式
10月	通信制後期入学式、中間考查、結縁灌頂出仕、明神社大祭 体験入学入寮、四国遍路、清掃ボランティア
11月	避難訓練、南嶺祭(文化祭)、校内マラソン大会、2年進路ガイダンス、清掃ボランティア、
12月	期末考查、公開授業、追悼法会、体験入学入寮、球技大会 公開実力試験(中学生対象)AO入学試験、三者面談、終業式 学業不振者補習、冬期講習、後期スクーリング(通信制)
1月	御修法参拝、AO入試、寒行托鉢、3年終業式、清掃ボランティア
2月	海外研修、スキー実習、えひめ丸慰靈法会、一般入学試験(本校・東京・大阪)常樂会、卒業式、1年進路ガイダンス、清掃ボランティア
3月	期末考查、通信制卒業式(東京校・本校)、学業不振者補習、春期講習、入学試験(1.5次 2次)、新入生対象説明会

4 ボランティア活動

平成25年度より報恩日に小グループに分けて金剛峯寺清掃奉仕を行う。

各種募金活動に積極的に参加したり、高野山こども園や高野山小学校を訪問し、読み聞かせの時間を持ったり、レクレーション等を通して交流を図る。

青葉祭や明神社大祭に全校生徒で参加し、地域の方々との交流を図り、地域の行事の活性化に寄与する。

5 生徒募集活動

(1) 学校説明会

※中学校 校長会対象

- ① 和歌山市中学校合同説明会
- ② 伊都地方中学校合同説明会
- ③ 泉南地区中学校合同説明会
- ④ 高野山中学校 説明会
- ⑤ 伊都橋本地区中学校長との懇談会
- ⑥ 那賀地方中学校長との懇談会
- ⑦ 奈良県中学校長会合同説明会

※学習塾 各種団体対象

- ① 五ツ木書房主催私立学校合同進学説明会
- ② 和歌山県私塾協同組合主催私立学校合同進学説明会
- ③ 泉州私塾連合会主催私立学校合同進学説明会
- ④ 中和会進学相談会
- ⑤ 東京私塾協同組合懇談会
- ⑥ 全国学習塾協会懇談会
- ⑦ 教育と進路を考える会主催私立学校合同進学説明会
- ⑧ 全国私立寮制学校協議会説明会 名古屋、大阪、横浜、東京4会場参加
- ⑨ 帰国子女のための学校説明会

※教育講演会

- ① 伊都橋本地区中学校対象教育講演会
- ② 教育講演会（大阪会場・和歌山会場）
- ③ 学習塾説明会（東京別院）

※その他

- ① 中学生との合同練習会（ハンドボール部）
- ② 寺族婦人研修会 高野山真言宗各地区の教師研修会
東京別院万灯万華会 特別伝道大会 等の本山行事においての説明
- ③ 中学校訪問・塾訪問（通年）

（2）体験入学・入寮

第1回： 8月24日・25日

第2回： 10月5日・6日

第3回： 12月7日・8日

（3）公開授業

12月7日（追悼法会と共に）

（4）教育講演会

東京：6月29日

大阪：9月17日

和歌山：9月25日

6 継続事業

（1）生徒への支援

生徒のこころのケアを行うためにスクールカウンセラーを週1日駐在し、生徒への支援の充実に努める。また、昨年度より懸案であった養護講師を採用し、週3日ではあるが、スクールカウンセラーと共に生徒の心身の健康に配慮する。

寄宿舎生は3食、通学生は昼食のみではあるが、給食制度を行っている。栄養士の管

理の下バランスの取れた食事を生徒に提供している。

(2) 通学の利便性の向上

橋本駅から本校間のスクールバスの運行を往路1便、復路2便行っており、生徒の通学の安全や利便性の充実を図る。

(3) 生徒への学習支援

①インターネットを利用した学習支援として、「e-学習システム」を利用し、普通科特別進学コースと宗教科II類の生徒の学習支援を図る。

②新入生の中で必要と判断した生徒に対して学力の補充の為に「学びなおし」の補習を1学期の放課後を利用して実施。また不十分な生徒には延長して指導を行う。

③長期休暇前には各学期の学習が不十分だった生徒に対して成績不振者補習として補習授業を行い学力の定着を図る。

④特別進学コースは春期講習・夏期講習・冬期講習を行い、学力の更なる向上を目指す。

(4) 特任講師の起用による生徒への支援

作家・高野山真言宗僧侶である家田莊子先生から各コースの生徒に対し、作家としての豊富な経験を基に指導していただく。(スポーツコース対象 5月13日、自己探求コース・特進コース 9月9日、宗教科1月20日)

7 平成30年度事業の実績

■国際交流

- ・平成30年12月23日～12月27日、インターラブが台湾研修
- ・平成31年2月5日～2月8日、2年生特別進学・自己探求コースがベトナムに研修旅行、スポーツコースがグアムに研修旅行を実施。

■学校行事

- ・音楽法会・育友会総会 5月26日(土)
- ・青葉祭前夜祭 6月14日(木)
- ・青葉祭 6月15日(金)
- ・明神社大祭 10月16日(火)

- ・四国遍路 10月23日(火)～10月27日(土)
- ・南嶺祭(文化祭) 11月 3日(土)、 4日(日)
- ・追悼法会・公開授業 12月 8日(土)

■平成30年進学実績

○大学

首都大学東京（法学部） 高野山大学（文学部） 3 大阪経済法科大学（法学部）
 大阪観光大学（観光学部） 京都美術工芸大学（工芸学部） 徳山大学（経済学部）
 羽衣国際大学（現代社会学部） 岐阜聖徳学園大学（経済情報学部）
 中京学院大学（経営学部） 3 杉野服飾大学（服飾学部） 環太平洋大学（現代教育学
 部） 高野山大学（別科）

○専門学校

和歌山県立高等看護学院 履正社医療スポーツ専門学校 3 大原専門学校 2
 大阪法律専門学校 京都芸術デザイン専門学校 大阪情報コンピューター専門学校
 伊勢理容美容専門学校 キャリナリー調理専門学校 大阪デザイナー専門学校

○就職

株式会社平松塗装店 ダイハツ工業株式会社 古川電設 岐阜車体工業株式会社
 高野山真言宗香川支所下安養寺

■学校説明会

・中学校主催

和歌山市中学校合同説明会（9月25日）
 伊都地方中学校合同説明会（10月11日）
 奈良県中学校合同説明会（10月18日）
 高野山中学校 説明会（11月5日）

・学習塾、各種団体主催

全国学習塾協会総会	（6月10日）
泉州私塾連合会例会	（7月10日）
中和教育研究会	（9月24日）
五ツ木書房主催私立学校合同進学説明会	（10月 7日）
泉州私塾連合会主催私立学校合同進学説明会	（10月28日）
全寮協主催「寮のある学校説明会」	

名古屋（11/9）、大阪（11/10）、横浜（11/16）、東京（11/17）

■教育の未来を語る会

学習塾を中心に、ホテルアヴィーナ大阪にて、理事長にも参加いただき、情報交換会を行つた。継続的に行い本校に対して協力的な学習塾との関係をさらに構築していく。

平成30年12月3日（月）

■体験入寮・体験スクール

第1回：平成30年 8月25日（土）・26日（日）

第2回：平成30年10月20日（土）・21日（日）

第3回：平成30年12月 8日（土）・9日（日）

■公開授業

実施日 平成30年12月8日（土）

■公開実力テスト

大 阪：平成30年11月18日（日）

和歌山：平成30年12月 9日（日）

■教育講演会

・伊都橋本

日 程：平成30年7月18日（水）

会 場：橋本市産業文化会館

対 象：伊都地方中学校長及び進路指導担当教員

演 目：高野山の瞑想法

講 師：富田向真 教諭

・大阪

日 程：平成30年9月18日（火）

会 場：高野山高校通信制大阪学習センター（難波サテライト）

対 象：大阪・兵庫・奈良塾関係者

講 師：富田向真 教諭

講 題：高野山の瞑想法

参加者数：60名

・和歌山

日 程：平成 30 年 9 月 25 日（火）

会 場：和歌山ビッグ愛

対 象：和歌山県内塾関係者

演 目：高野山の瞑想法

講 師：富田向真 教諭

参加者数：25名

■平成 31 年度入試結果

出願区分	受験者数	合格者数	入学手続き者数
専願	36	36	36
併願	26	26	5
合計	62	62	41

広域通信制課程普通科

1. 運営方針

(1) 広域制なので日本全国どこからでも入学できる。広告手段として高野山真言宗の寺院ネットワークを活用する。具体的には高野山教報、高野山高校同窓会を中心に働きかけ認知度を

上げ、寺院子弟をはじめ檀信徒から就学希望者を募る。

(2) 高野山高校通信制課程の構築に際し、単に生徒数の増大だけを考えるのではなく、高野山全体の繁栄に貢献できるような視点から計画運営するように心がける。具体的には、通信制の生徒数増加に伴い、高野山訪問者がその保護者、関係者等の同伴により増加し、また宿坊等の利用も増えるように配慮する。

(3) 教育問題に関心のある本宗寺院や塾にサポート校となっていただくことで、本校通信制と連携した生徒育成を可能にする。

(4) 教育問題に関心を持っていただけた各寺院への認知度を上げるため、各種講習会などで全

日制同様告知を展開する。

- (5) 普段は高野山内寺院に止宿し、お手伝いをしながらスクーリング等必要な時だけ登校するようなシステムを寺院と連携しながら検討する。
- (6) 通信教育希望者はインターネットでの情報収集が多く考えられるので、H Pでの発信力を強化する。
- (7) 全日制との連携強化・情報交流を更に進め、全日制での就学が難しくなった生徒の受け入れを積極的に行う。高野山高校に入学した生徒は退学せずにさまざまな方法を用いて学校全体として卒業を目指すことを前提とする。
- (8) 高野山高校に就学する意義を明確にするために大師伝などの受講は必修とする。
- (9) 現在サポート校として加盟しているのは関西地区 17 団体、関東地区 14 団体(計 31 团体)である。今後は情報の共有や生徒への教育、生徒募集での協力体制の連携を更に深める。
- (10) 通信制の場合、年度途中からの転入学、編入学の生徒が見込めるため、それらの入学につなげられるよう広報活動を行う。

2. 生徒数

	平成 29 年 5 月	平成 29 年度末	平成 30 年 5 月	平成 30 年度末
本校	14 名	17 名	12 名	22 名
大阪校	1 名	2 名	0 名	0 名
東京校	11 名	11 名	8 名	11 名
合計	26 名	29 名	20 名	33 名

※ 年度途中での転入学生・編入学生による増加が見込まれる

※ 令和元年 5 月 1 日現在 36 名 (内 3 名休学) で令和元年度中には 40 名を超える見込み

3. 事業報告

(1) 生徒募集

・入学相談・説明会

大阪学習センター・東京学習センターを利用して個別の入学相談会を実施し、途中転入や編入学生の入学につなげた。

- ・日本相撲協会での通信制説明会 5月31日
- ・通信制高校合同説明会
6月2日, 6月17日, 6月30日, 10月7日, 2月24日(ブース参加)
- ・全国の真言宗各寺院, 近畿圏の中学校・学習塾, 東京23区の公立中学校・高等学校, 四国4県中学校, 横浜市内中学校等への入学案内等送付。
- ・『高野山教報』への募集広告掲載。
本校は完全な広域制なので日本全国どこからでも入学できる。広告手段として高野山真言宗寺院のネットワークを活用するように努力した。

(2) スクーリング・特別活動

基本的には、できるだけ多く高野山高校本校での集中スクーリングに参加できるよう東京校在籍の生徒にも勧誘をした。同時に保護者、生徒関係者も高野山に来ていただけるように告知勧誘を行った。

A. スクーリング

本校・大阪学習センター・東京学習センター

夏期に4日間、冬季に4日間 それぞれ本校（高野山）にて実施

※上記の他にも、在校生の状況に合わせて、本校と各学習センターにて個別にスクーリングを実施した。

B. 特別活動

廟参、金剛峯寺見学、写経体験、ねぶた制作、宝来づくり、
靈宝館文化財ふれあい体験、ごま豆腐作り体験、生け花体験等実施

(3) 単位認定試験

・前期

- ・本校 8月実施
- ・大阪学習センター 8月実施
- ・東京学習センター 9月実施

・後期

- ・本校 2月実施
- ・大阪学習センター 2月実施

(4) サポート校の組織化

通信制課程の場合、生徒募集に塾等と提携して生徒募集を効果的に実施できることが多い。そのために業務提携覚書を交わしてサポート校になってもらっている。本校は全国どこからでも募集可能なので全国でサポート校を募集している。現在、関東、近畿にまたいで31校（団体）のサポート校を組織している。

(5) 平成30年度 進路実績

<大学・短期大学>

近畿大学（生物理工学部） 龍谷大学（文学部） 大正大学（仏教学部）
大谷大学（文学部） 近畿大学短期大学部

<専門学校>

日本美容専門学校 大原専門学校2 サンミーゴネイルスクール専門学校

4. 今後の課題

現在本校では教員が全日制と通信制の指導を兼職しており、全日制の職務の時間を割いて、通信制の対応しているのが現実である。今後生徒数増加に従い、高野山というブランドを汚さないきめの細かい指導を継続的に行うためにも、通信制専属の教員、事務職員の整備を考えられる。

(1) 大阪学習センターについて

- ・大阪府では他府県に本校のある学校は無償化につながる大阪府独自の就学支援金等の優遇措置が受けられないので生徒募集が不利である。しかし、西日本での高野山ブランドの知名度は高い。そのため西日本地区の出先機関として高野山大学難波サテライト教室を拠点として教育相談などの窓口としたい。また、通信制在学生への充実した教育活動を展開するため、特定曜日には開講し本校教員から直接指導を受けることが出来るよう配慮し、本校教員で対応できるように準備する。
- ・高校卒業資格以外にもダブルスクールを利用して、各種資格の取得や専門的な技能の習得ができるよう、各種団体との連携を図る。

- ・高野山大学難波サテライトで行なわれている各種講義や講座の中から、通信制生徒が受講できるものを精査し導入することを検討する。

（2）東京学習センターについて

- ・高野山東京別院の全面的協力をいただき東日本地区への生徒募集拠点となった。港区高輪の地の利と、高野山の知名度と特色を発揮して広報活動を活発に行いたい。スクーリング等に関して、集中スクーリングは出来るだけ本校を利用するが、他方では本校への依存度を少なくして東京別院でも完結できる内容を準備し、全国の学生が就学しやすいように配慮する。

- ・毎日コース、特定曜日コース等を設置し、常に生徒が来やすい体制をとる。

現在、東京学習センター長1名（河西先生）と任期付専任教員（女性）1名だけだが、生徒募集活動、日常の教育活動担当者及びスクーリング担当非常勤講師の充実が必要である。

（3）毎年生徒募集の目標値を定めその実現に向かって努力する。そのためには高野山高校全体で協力する体制が必要である。集中スクーリングについてはバス会社、観光会社等との提携も視野に入れるべきである。また、通信制のシステムは色々な可能性があるので、各種教育団体等（テニススクール協会、サッカー教室、バレー教室、音楽教室、相撲部屋、中卒で働く職場、帰国子女団体等）との提携、を積極的にすすめていく。

4. 高野山幼稚園（高野山こども園）

高野町との公設民営の形態で指定管理者として「高野山こども園」の運営を請け負い、1歳児から5歳児を対象とした長時間保育、3歳児から5歳児のみを対象とした短時間保育、預かり保育、長時間保育児を対象とした延長保育を実施し、指定管理契約の最終5年目の運営を終えた。

（1）事業の概要

①教育に関する取り組み

■教育内容

健康・人間関係・環境・言葉・表現の5領域並びに、道徳的・芸術的・宗教的情操教育を取り入れた教育を行っている。

■早朝保育と延長保育の実施

園児に対して、午前7時半からの早朝保育や午後5時以降の延長保育も行った。こども園として地域の子育て支援の主体として活動している。

■宗教教育

高野山という地域の持つ風土的特性にも考慮した形で宗教的・道徳的な要素を加味した教育・保育を実施した。

②運営に関する取り組み

■和歌山県・高野町との協議

和歌山県・高野町と連携し、業務・運営に関する事項の改善に努めてきた。

■施設・設備の環境整備

高野町との協議の中で積極的に施設の整備や改善を要望してきたが、全てが改善されたわけではなく、今後も高野町との協議の中で積極的に施設の整備や改善を進めていく。

平成30年度は、園送迎バス運行の業者委託、防犯カメラ（3台）の設置、電気錠を設置して施設の整備・改善を行った。

（2）今後の課題

現在は、公設民営方式として幼保一体の事業を行っているが、公設民営方式での学園の特色を生かした教育・保育の実施や創意工夫をさらに進める可能性を探ることが課題である。また、幼稚園教諭・保育士の有資格者の確保・増員は急務である。